

くろつち便り

今月の内容

くろつち会総会交流会(6/17)／共助会計画／ハンセン病市民学会(5/20.21)／支部清掃(7/29)／原爆祈念集会(8/9)／野草折々61(ツカナズビ)／Series学校現場から⑩／くろつち会GG大会／その他／**今回の金曜集会は9月1日 17:30～**



↑会報QRコード

くろつち会総会

☆総会開会直前

「メガネはいけんしたとな。」
「白内障の手術をしたのでいらんごになった。」
「良かん見ゆっなー」……
皆さん元気元気。びっくりです

☆総会

さーすがくろつち会員、司会の野口さん登場でシーンとなりました。おこころさんです。議長はあなたしかいないと、日高南海男さんを選出

日高議長：早く終わって早く次の会に……



来賓挨拶 上山修大隅地区支部長

中馬さん、柳さんの当選を祝し、今後の教育界に尽力してもらいたい。組織に不安がある。現退一致の活動を進めたい。時々支部に来て、指導してくれると助かります。



☆協議

名物議長の日高さんの「交流会の時間を確保するために、スムーズに進行しましょう。」の一言で、議事は「異議なし。」の連発、総会は早々と終了。

☆閉会

迫睦子さんの挨拶

4年ぶりのなつかしい総会でした。



急にワイワイガヤガヤ、心は既に… (取材：内俊郎)
(一番の楽しみの交流会は次頁)

春成耕一労金支店長



4月着任しました。信頼される活動をしたい。労金友の会の総会も4年ぶりに開催されると思います。

松尾会長挨拶

塩田知事は聞く耳がない。本当に大丈夫か原発は。廃棄物処理の話が南薩にある。福島をもう回経験しないと……



新会員は4年間で17人でしたが、総会に今回出席できたのは、原園さん、堀内さん、大木さんの3人だけでした。(交流会には片平さんも参加)



残念ながら指導案を個々に提出ということになったが、その代わり5月分の出席簿の提出を行った。

指導者名を各担任にして提出を……という指示があったようだ。指導案のどこに不備があるのかと早速校長室へ行った。

忙しいうちに「合同訪問」とやらがあった。指導案の提出はやめさせることはできなかったが、我が3年部は全く同じ内容のもの学年部の指導案として提出することにした。もちろんそれまで本時の学習についての打合せは念入りにやった。しかし、案の定管理職から学年主任に、「せめてそれぞれの学級の実態に合わせた内容で……また、指導者名を各担任にして提出を……」という指示があったようだ。



学 校 現 場 場 所 からの
シリースズ その⑩
寿北小 関下俊郎
5月 29日、

着いた状態で座席に着いておられた。約2時間半の研修である。最初は書籍を引用した生徒指導に関する講話。何度か目を閉じてうなずいた……と言いたいが、ひよつとすれば眠りに陥ったのかもしれない。効きすぎるエアコン設定のおかげで目が覚めた。そして、次の研修は毎回のよう

にICT機器の操作だ。機器の操作を理解すればもちろんおもしろさもわかるが、果たして現場に必要なのかと未だに疑問が残る。

さて、「再任用教職員研修会」が今年も実施された。今年の会場は本校寿北小学校ということで「再々々々任用」も参加しないわけにはいかず、タブレットを持って渋谷会場に向かった。会場には見たことのある仲間が、決して生き生きとした表情でもなく(表情だけで意気込みはあったのかもしれないが)落ち着いた状態で座席に着いておられた。約2時間半の研修である。

出をやめさせた。公務支援システムで打ち出される出席簿は監査でも月締めである。それをわずか3日残して5月分を提出させると言うことは意味がないと再三訴えてきたことを聞き入れた。「校長、毎日7時過ぎまで残る職員が多忙化を見て見ぬふりですか……」と。

仲間と議論をかわしながら教材を分析し授業構想を立て、それに合わせた効果的な教具作成……といった、忙しかったが少なくとも「やった感」を味わったあのころがいいな……と思うのは私だけか?

疑問が残る。仲間と議論をかわしながら教材を分析し授業構想を立て、それに合わせた効果的な教具作成……といった、忙しかったが少なくとも「やった感」を味わったあのころがいいな……と思うのは私だけか?



ついでに「再任用」……

くろつち会歓迎会・交流会

交流会は樋園光子さん川口柳子さんの進行でスタート。

柳せい子県議が鹿児島から駆けつけられ挨拶。



カンパイ!



中馬美樹郎市議の乾杯で、会場はボルテージが一気に爆発。



県議選の応援ありがとうございました。皆さんと共に勝ち取ったバツジをつけてきました。鹿屋の方々の底力を新たに感じてきました。おかげでまた県議会の場で活動することができ、山積する課題が多いですが……



四年間の空白を埋めようと、途切れないお互いの会話の花。コントロール不能の1時間半が、あっという間に過ぎ……



新加入の4名の紹介。左から片平喜代三さん、大木順子さん、原園正敏さん、堀内憲二さん



団結ガンバロウ!



久しぶり日教組組合歌を全員で力強く熱唱。大木順子さんの音頭で「団結ガンバロウ」を叫び、上園紀男さんの閉会の挨拶でお開きに。

(取材：野口幸司郎)



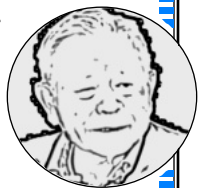
このような日常に期待し、また次回の再会を願って今日の会を終ります。



野草折々-61-

飯山春男さん紹介の身近な植物シリーズ

ヘツカコナスビ
(サクラソウ科)



大隅半島辺塚周辺の山地でまれに見られる。絶滅危惧種でもある。

2023年6月21日 稲尾岳
(写真は友人の立久井さんの提供)



現退共働支部清掃

7月29日、恒例の支部清掃。現職と退職組が一緒に行う、数少ない活動の一つだ。

あったのに気づいて、どなたがされたんだろうと思っていたら、中馬さんの話によると現職の北山さんが5月の連休の頃にしてくださったんだそうです。

この日の参加は総勢30名ぐらいいましたが、現職退職組はもちろん、いろんな方々の思いに守られている支部だ、ということに改めて感じました。(樋園)

あつたのに気づいて、どなたがされたんだろうと

その他連絡、編集後記

- ▼明日、8月9日10時から1時間程度、**原爆祈念集会**がイベント広場前でもたれます。
- ▼次回金曜集会は9月1日17時30分～18時です。
- ▼県民投票条例署名運動、ご苦労様でした。
- ▼南九州新聞意見広告への協力ありがとうございました。
- ▼くろつち便り発行が2ヶ月ぶりで、その間の記事が多く、ごてれつりの独り言はお休みです。

などのあいまいな形容詞には要注意で、不都合なことは小さく見せようとする。逆に実際はそうでもないのに住民の関心を向けて煽るために「重要な」などの形容詞をつけたりしている。

明確に反対する人たちがいるというのを示し続けることが大切だ、とも述べられた。しかし**フィルターバブル**といって、人は自分の考えに合ったものだけを見がちで、基地問題とかに目を向けてくれない。(4月号独り言②「お笑い米軍基地」で触れた、心理学用語の「防衛機制」みたいなもの)

現状を変えていくには、この**フィルターバブル**をこじ開けることが必要だ、ということを強調しておられました。社会とか大きな主語でなく、我々という小さな主語、我々に直結するんだという視点から訴えたらどうだろうと言う。

講演後の総会でも、若い人たちへ運動をどう継いでくかも話題に上った。

(題字：眞島幸則さん) (樋園)

くろつち会GG大会

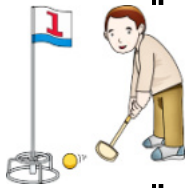
別途案内の通り、恒例のグラウンドゴルフ大会があります。

○日時 10月8日(日)
受付8:30 開会9:00
※予備日10月15日(日)

○所 かのやグラウンドゴルフ場
Dコース (電話42-3222)
○参加料 一人300円

○賞 順位賞5位まで
BB賞
ホールインワン賞

○参加申込方法
✂切 9月24日(日)
FAX・電話等で申込んで下さい
TEL・Fax 40-2375 矢野務
携帯090-5736-6677



共助会行事予定

共助会肝属支部の2023年度の行事予定です。

第19回教育講演会

8月23日(水)
14:00~16:30
(受付 13:30)

講師 篠原美穂さん(鹿児島女子短期大学臨床心理学講師)
子どもたち、教職員のストレスマネジメント



第21回ボウリング大会

10月27日(金)
笠之原ボウリングセンター
受付18:00~18:30
競技18:45~20:15



第19回グラウンドゴルフ大会

2月11日(日)
予備日 18日
かのやGG場Dコース
13:00~15:00
(受付12:30~)



料理教室については今後、実施するかどうかも含めて検討。

現在10支部を、将来7支部に再編する計画があります。その場合、曾々と肝属が一緒になります。



(一応の) おわりの会

剪定作業をしておられたU.M子さん(写真下の右上)が「今日の作業は、初めての人とも話できて、楽しかった～」と語っておられたとか。初めての人というのは元全林野出身の吉留さん(写真下の中央下)のことらしい。



御年86才だそうで、驚きです。

また、支部で会があった折り、草払いをして

軍事強化と市民運動のま

■フィルターバブルをこじ開けよう



7月22日、9条の会は南日本新聞社記者の片野裕之氏を講師に迎え講演会を開いた。氏は取材を通して感じられたことなどを話された。

馬毛島問題や鹿屋MQ9問題など取材を通した話だけあって、具体的で分かりやすかったし、行政の進め方に憤りを感じた。馬毛島では説明がないまま、透明性がないまま国と契約を変更し、やりたいことを始めている。

この手口は、鹿屋の無人機配備計画・運用にも見られたという。

自衛隊や行政側の説明で「ちょっとした(事故)」とか「重要な・」

第十七回総会・交流集会・鹿屋

主催 ハンセン病市民学会

ハンセン病市民学会

2005年から始まったハンセン病市民学会、17回の歴史の中で、鹿屋開催は今回で3回目だそうです。開会式で参加者について、ある共同代表が挨拶の中で「鹿屋での1回目は700人、2回目は500人、そして今回は少ないですねえ・・・」と話されました。

(コロナ禍で2020年21年は開催されず、昨年は長崎での開催だったそうです。)

今回の市民学会では、多くの学生・高校生が参加してくれて、全体会司会（モザイク写真左）や会場案内など会の運営を手伝っていました。



高校生による司会

また多くの退女教員も、会場設営や受付などの役で、大会参加者の世話をしていました。

いつだったか松下徳二さんが「前回と比べて、どの企業、団体からも寄付をもらうのが大変だ」と漏らしていました。資料

集の終わりの方には、同大会への寄付者・団体が広告欄として掲載してあり、その中に、くろつち会や退女教、九条の会おすみなどの名前もありました。

また個人では、倉園尚さんも名を連ねていました。

全体統一テーマ：差別の連鎖を断つ 反差別、共生の願い、その広がりつつなかりを求めて

5月20日(土) 全体会

未だにハンセン病への偏見差別が解消されていない実情であることが全体会の中で明らかにされた。それはある共同代表の「私たち入所者は偏見差別に対し超越し、いわば開き直りであることもできるが、家族は深刻だ。冠婚葬祭など、事ある毎に表に出てくる。」

という挨拶の言葉にも見られたように、「具体的に社会と接する場面（家族）で偏見差別が現れてくる」ということである。

これは、個人の問題ではない。基調報告が「ハンセン病に係る偏見差別の解消のための施策検討会」を柱に据えて述べられて「ハンセン病問題基本法の改正」を強く主張している所以である。



受付の様子

これまでの法律では実効性がない。相談窓口の改善と拡充、人権侵犯事件の調査、国内人権機関の設置等など急がれる。

しかし、実効性のある法改正には「熱気」が必要だ、とも述べられた。

分科会C 「ハンセン病問題から学ぶ人権学習」

21日(日)、大会2日目は、ABC、3つの分科会で討議がなされた。そのうちの1つ分科会Cは、かのやグランドホテル2階の大広間だった。会議用テーブルがずらりと並んでいて、60人以上の参加者だったろうか。

■生き方の真ん中に・・・

5人の問題提起者の一人は大始良小の濱田洋一朗さんで、「生き方の真ん中にハンセン病問題」と題して、日々の実践を発表された。上野正子さんの紙芝居を使ったり、非常にいい実践をされておられたが、しかし上から目線のパターンリズムの実践で、独りよがりだったと気

づかれたという。そして子ども達とのつながりを第一に考えて、子ども達から学ぶという姿勢に変わってきたことを話された。

■これからの人権問題の視点

ここの分科会では、ハンセン病問題はもちろん、同和（被差別部落）問題、障がい者や性的マイノリティなどに関する人権学習なども話題に上がった。4人目の発表者、久保井撰さんは、同性婚訴訟、優生保護法訴訟原告弁護団のお一人で、特にジェンダー差別の視点から話された。

医師でもあるという和泉真蔵代表が「ポストコロナを踏まえて、もう一つの視点、感染症と人権という視点が必要だ。」と述べられた。これから先、様々な感染症が出てくるだろうが、ハンセン病を特化しないということだ。



に且つ継続的に取り上げてほしいと訴えた。

■水の中で流す涙を

原告190番という

方がマイクを手に「家族問題があり、今でも名前を名乗れない人がいるんだということ。人権問題への取組でできない理由を見つけるのは容易い。できることを見つけてほしい。水の中で流す涙、人知れず流している涙を見つけてほしい」と訴えられたのが印象的だった。

また大阪支援センターにお勤めの女性が「ハンセン病は遺伝しない、感染力が弱い、だから怖くない」という言い方は、じゃあ遺伝病の人や感染力が強い人は差別していいのかということにもなる、と問題点を指摘した。

様々な問題が渦巻き多様化複雑化している人権問題、非常に勉強になった。（樋園）



茶園さんはメディアの姿勢について、もっと精力的